12月4日から10日までは人権週間です

お互いが尊重される地域（まち）づくりを目指して

1948（昭和23）年、12月10日に第3回国際連合総会の場で、全ての人と全ての国とが達成すべき共通の基準として、「世界人権宣言」が採択されました。世界人権宣言は、基本的人権尊重の原則を定めたものであり、初めて人権保障の目標と基準を国際的にうたった画期的なもので、採択日である12月10日は「人権デー」と定められました。

日本では人権デーを最終日とする1週間（12月4日から10日）を「人権週間」と定め、その期間中、各関係機関や団体が人権啓発活動を行って人権意識の高揚に努めています。

しかし、新型コロナウイルス感染症の感染者などに対する偏見・差別、インターネット上での誹謗（ひぼう）中傷、いじめや虐待、外国人や障がいのある人、ハンセン病元患者やその家族などに対する偏見・差別など、さまざまな人権問題が依然として存在しています。

これらの問題を解決し、誰もが人間らしく幸せに暮らしていける社会を目指すためには、私たち一人ひとりが人権尊重の重要性を改めて認識し、人権に配慮して行動することが大切です。

芦屋町でも人権講演会の開催や人権啓発パネルの展示などの人権啓発に取り組んでいます。人権週間を人権のことを考える機会として、その意義や重要性を学んで人権への理解を深めるとともに、周りの人を思いやる気持ちを持って、互いが尊重される地域（まち）づくりを目指していきましょう。

《人権週間の行事》

■芦屋町人権講演会（オンライン開催）

▽とき　12月4日（土）～10日（金）

▽講師　浦田 理恵さん（東京パラリンピック 日本代表選手団 副主将、ゴールボール銅メダリスト）

※オンライン開催（録画配信）です。詳しくは広報あしや12月号に折り込んでいるチラシをご覧ください。

浦田 理恵さん
写真／シーズアスリート

■人権啓発パネルの展示

▽とき　12月1日（水）～10日（金）

▽ところ　役場　1階ロビー

▽問い合わせ　社会教育係（☎223・3546）

差別をなくすために　第438号

芦屋町人権・同和教育研究協議会
▷問い合わせ　社会教育係
（☎２２３局３５４６）

「幸せ」は平等に与えられた権利

芦屋中学校２年　中松　俐美（りみ）

私は、人権について考えていくうえで学校での人権学習や道徳の授業で学んだことをもとに、これから自分がどんなことを大事にしていくかを考えました。

一つ目は、「相手の気持ちを考える」ということです。人の気持ちというのは、その人自身にしか分からないことですが、相手の気持ちになって考えてみることは自分にもできることだからです。学校での人権学習では、高齢者の人権について考えました。すると、友だちの意見の中には、高齢者は耳が遠い・厳しい・体が弱いなど、マイナスなイメージを持っている人が多くいました。しかし、学習を進めていくと、高齢者の方は自分が頼られていないことをさみしく思っているということが分かりました。マイナスを疎（うと）ましく排除するのではなく、先人の知恵や考えに耳を傾け、できることには頼って甘えるほうが相手の喜びや楽しみにつながることもあるのだなと思いました。私も、一番身近な高齢者である祖父母への接し方をみつめ直すきっかけとなりました。またこのことをとおして、「相手の気持ちを考える」ということは、高齢者だけでなく友だちなど誰に対しても必要なことだと思いました。自分では優しさのつもりでも相手を傷つけてしまうこともあるのだから、冗談や軽はずみな言動で相手を傷つけるようなことはあってはならないと思います。私は母から「心の傷は一生消えない」ということを教わりました。もし、自分が相手の立場だったらと考えなければいけないこと。自分がされて嫌なことは、人にもしてはいけないこと。頭では、分かっていても常にそのことを考えながら行動することは難しいと思いますが、意識して心がけていきたいと思います。「いじめ」や「虐待」など、人の人生を真っ暗にさせてしまうようなことは決してあってはならないことだと思います。相手の気持ちを考えて、起こってしまう前に止めることが大事だと思います。なので、「人権」について知り考えることは、防止のためにも重要なことだと思います。

二つ目は、「自分から行動してみる」ということです。この世の中の争いや悲しみを全てなくすことはできなくても、自分が変わることで何かを変えることができるからです。道徳の授業で「ＲＥＳＰＥＣＴ　ＯＴＨＥＲＳ（リスペクト　アザーズ）」という言葉を知りました。日本語で、「他人を尊重しなさい」という意味です。私は、とても素敵な言葉だなと思いました。この言葉をとおして「人をいじめてはいけない」と行動を注意するのではなく、その行動を起こしてしまった根本の考え方を問題としているところが素晴らしいと思いました。また、人はきっかけがあれば変わるのだということにも気付かされました。私自身、リスペクトアザーズという言葉に出会い、それを意識して行動するようになったので、私が変わるきっかけになりました。

それ以前にも、母と人間関係について話しているときに、「相手を変えることは困難なことなので、相手をどうこう言う前に、まずは相手の為に自分が変わる努力をしたほうがいいよ。自分が変われば、きっと相手も変わってくれるから」とアドバイスをもらったことがありました。自分の言動を改め、自分自身が変わることで相手も変わってくれる。私はそれを信じて行動しました。うまくいくことばかりではありませんが、行動しないと何も変わらないので、「やってみる」を大事にしています。それは、もし自分が「いじめ」などを見つけた時の「止めてみる」やいじめられている人に「声をかけてみる」につながると思います。

私は、これからも「相手の気持ちを考えること」と「自分から行動してみる」ということを大切にし、人々が平等に与えられた「幸せ」になるための権利を守っていけるようにしていきたいと思います。

※この記事は、町内の小中学生が「人権」をテーマに作成した作文で、提出された作文の中から芦屋町人権・同和教育研究協議会が選考したものを掲載しています。